

第 45 回 卒業式 学校長のことば

45 期生の卒業生のみなさん、足柄高校ご卒業おめでとうございます。

また、本日ご列席いただいている保護者・関係者のみなさん、お子様のご卒業誠におめでとうございます。高い席からで恐縮でございますが、心よりお祝い申し上げます。この日を迎えるまで、いろいろご苦労もおありだったかと思いますが、今ここから卒業生の姿をみておりますと、一人ひとりまことに頼もしく成長されています。われわれ教職員同様、いやそれ以上に万感の思いでこの日をお迎えになっていられるのではないのでしょうか。

また本日は、ご来賓として、PTA 福田会長様、学校運営協議会の皆様、本校 PTA 本部の皆様、旧職員の早野先生にもご列席いただいております。この場を借りまして、御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん、皆さんの高校生活は、コロナウイルス感染拡大による教育活動の制限により、戸惑いとともに始まったと思います。その後、しばらくの間、感染者の増減が波のように繰り返される中、学校は感染拡大防止を常に考慮し、出来ることを模索しながら教育活動を行いました。入学間もない皆さんは今後どうなるのだろうととても不安なスタートだったのではないのでしょうか。2年生になると、コロナ前の日常を取り戻すとして、足高祭でこそ入場制限等を設けましたが、沖縄方面修学旅行は予定通り開催し、高校生活の思い出となっている人が多いと思います。そして3年生の1年間、自分や自分の将来と向き合っている中で、高校生活はあっという間に過ぎてきたのではないかと思います。

卒業するみなさんへ向け、私からお祝いの気持ちを込めて伝えたいメッセージがあります。それは、「意志さえあれば道は作られてゆく」です。先日、日本初の月面探査ロボットのテレビニュースを見ていましたら、大手玩具メーカーの開発者が「まさか、子ども向けに研究開発した商品が、月面に降り立つとは想定すらしていなかった」と話していました。予測不能な正解のない時代。誰がどこで必要としてくれるかわからない時代背景となると、モラルやルールの範囲内で蓄積された個人の信念こそが、周囲の人の共感を得て、一つの道として作り出されていくのだろうと考えます。私は、意志を持ち続けられる力こそ、いいかえれば、簡単にあきらめない気持ち・力こそが未来の皆さん自身を助けると信じます。

みなさんの高校生活は今日で終わります。失敗したことや後悔したことなど過去は変えられませんが、これからの長い長い日々は、皆さんの意志一つでどのようにも作ることができる。それは、皆さんの心のみが決めることです。

卒業は人生の一つの節目です。自分の時計を一度リセットするタイミングです。これから、45 期生はそれぞれの人生を歩み始め、新しい自分、新しい友人と出会い、新しい生活が始まっていくのでしょう。その未知なる社会の中で、自分の生きる道を作り出してほしい。立ち止まって後ろを振り返れば、皆さんの作った道の後方には、いつも皆さんを見守る足柄高校があります。今から18年前の、創立30周年記念誌の冒頭部に、本校生徒は誠実で思いやりのある人間性を持っていると書かれています。今でもその伝統は変わりません。素晴らしい人間性を備えた皆さん、どうか、この後もお元気で。足柄高校 45 期生卒業生皆さんの人生に、幸多かれと祈ります。

令和6年3月1日

足柄高等学校 校長 石川 晋吾